



# 鶏 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

イエスの言葉

『悲しむ人々は幸いである

その人たちは慰められる』

聖書(マタイ福音書5章4節)

牧師 河合裕志

イエスはヘンな事を言う。悲しむ人々は幸いだ。なんで悲しむ人が幸いなのか。全くわからない。私達はいろんな場合に悲しむ。人が死んで悲しむ、病気になって悲しむ、事故にあって悲しむ、仕事を失って悲しむ、会社が倒産して悲しむ、人に裏切られて悲しむ、わが子が罪を犯して悲しむ…。

誠に世には様々な悲しみが満ちている。私達自身もいろんな悲しみを経験して来ている。どの悲しみも辛く悲しいもの。こんな悲しみにはあいたくない。

イエスもいろんな悲しみを味わって来たよう。「イエスは涙を流された」とある(ヨハネ福音書11章35節)。イエスの友人ラザロが死んだ。とても愛していた友。その墓前に立ってイエスの目より涙がこぼれた。悲しい、この位悲しいことはない。もう親しく話すことが出来ないのだから。イエスも人間、人並みの感情は持っていた。多くの悲しみの中で死別位悲しいことはない。

こうした悲しみがなぜ幸いなのか。イエスによればそれは『その人たちは慰められる』から、ということのよう。それってどういうこと。慰めるって誰が慰めるって言うの。それは家族、友人、知人でしょう。

悲嘆に落ちてそんな慰め手が現れてくれれば幸い。これは確かに幸い。悲しみを理解し同情し共に荷ってくれる人が一人でもいるならこんなに心強いことはない。今あなたが元気なら目下悲しむ人を慰めてほしい。それはイエスの望んでいるところ。

そしてイエス自身も慰めようとしている。どうやって。イエスなんて今はどこを捜してもいないでしょう。だからイエスの慰めなんてとても無理無理。しかしこんな賛美歌が昔から愛唱されて来た。「いつくしみ深き友なるイエスは われらの弱きを知りて 憐む 悩み悲しみに沈める時も祈りに応えて 慰めたまわん」。不思議な賛美歌。

祈れば慰められると歌う。あなたも、イエスよ、と呼びかけ祈って見たらどう。イエスは確かに死んだけどその後復活して今も生きている。天に居り、またあなたの部屋に居る。目には見えないけど空気のように存在している。そしてあなたから呼びかけられるのを待ち、慰めを与えようとしている。あなたの悲しみを共に荷おうとしている。それは信じ難いこと。でもイエスよ、と呼びかけてみて。目を閉じて、心から。何度も何度も。

## 集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

英語聖書を読む会：日曜日午前9時半

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時